

# 平成29年度 第1回 鎌ヶ谷市総合戦略等検討委員会 会議録

日 時	平成29年10月3日（火）14時～15時50分
場 所	鎌ヶ谷市役所6階 第1・2委員会室
出席委員 （敬称略）	秋山秀一委員、菅野勝利委員、松林百合子委員、細田淳委員、 足立達昭委員、真子第心委員、田中哲也委員、片桐博子委員、 伊藤亮一委員、倉島哲也委員、榎本美紅委員
欠席委員	小島邦夫委員、関浩委員、篠塚紀子委員
市出席者	皆川総務企画部長、武田総務企画部参事、斉藤市民生活部参事、 菅井健康福祉部次長、若泉都市建設部次長、笠井生涯学習部参事、 松本消防本部次長、狩谷企画財政課長
事務局 記 録	小笠原企画政策室長、築地企画政策室長補佐、小暮主任主事 小暮
傍 聴 者	なし

## 1 委嘱状交付

人事異動に伴い、委員の変更があった4名の委員（細田委員、真子委員、田中委員、伊藤委員）に対し、皆川総務企画部長から委嘱状を交付した。

## 2 議題

### （1）会議録署名人の選出について

会議録署名人は、委員名簿順として、倉島委員、榎本委員と決定した。

### （2）「鎌ヶ谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る効果・検証について

#### ①平成28年度の実績結果について

（秋山委員長）

昨年度の実績結果について、資料1の3ページに成果指標の進捗状況を表にまとめ、資料2では、事業ごとの実績状況を一覧にまとめている。

そこで、まず①「平成28年度の実績結果について」、何かご意見、ご質問、ご提案などがあればお願いしたい。

（足立委員）

基本目標3の成果指標である「雇用・就労人数」として、平成28年度（以下「昨年度」という。）の実績が、123人となっているが、この内訳を教えて欲しい。

（鎌ヶ谷市）

基本目標3の事業の中で、昨年度に取り組んだ結果、雇用・就労に繋がった事業の

実績値を積み上げたものである。

具体的には、資料2の事業NO. 37の「就職人数」100人、NO. 43「研修受講者の就業率」4人、NO. 44「シルバー人材センター会員数」3人、NO. 45「就労系福祉サービス事業所等から一般就労への移行者数」16人を合計したものである。  
(足立委員)

鎌ケ谷市内で働ける環境ができると良い。そのためにも、企業誘致を進め、様々な企業が参入することで、雇用を増やしていくことが大事であると考えている。

(榎本委員)

大きく2点お話ししたい。

1点目は、公園遊具の整備についてである。

昨年度の貝柄山公園の遊具更新について、子育て世代の母親からは、大変好評であり、とても嬉しいとの意見があった。夏のニコカマフェス終了後にアンケートを実施しているが、公園に関する意見が一番多く、ボール遊びや走って遊べる公園があると良いといった声が挙げられている。

2点目は、パークマネジメント事業についてである。市民に公園の管理を任せるものであり、収入も入り、メリットも多い。実施したい団体もいるが、見送られてしまったので、ここで再度提案したい。

(秋山委員長)

市民が楽しめる公園があることは良いことであり、故郷として遊びに来られる公園があると良い。茨城県古河市にある公園では、通常ではできないことが出来る公園があるので、ぜひ見て欲しい。

次に、資料1の3ページの下段に記載の「②具体的事業の重要業績評価指標（KPI）に係る進捗状況」であるが、97の指標がある中、昨年度と比較して、上昇した指標は半分を超えており、計画2年目として概ね順調に推移しているかと思う。

そこで、昨年度特に力を入れ、指標が上昇した事業について、事務局からいくつか紹介して欲しい。

(鎌ケ谷市)

～ 4つの基本目標ごとに、指標が上昇した事業を紹介 ～

○基本目標1「人々が交流・定着する、魅力あふれるまちづくり」

「NO. 3 都市軸及び近隣商業拠点の整備促進」、「NO. 4 観光の振興」

○基本目標2「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり」では、  
「NO. 13 児童センター等の子育て環境の整備」、「NO. 16 就学前の子どもに関する教育・保育サービスの充実」

○基本目標3「働きたいという希望をかなえるまちづくり」

「NO. 36 起業の促進」、「NO. 38 店舗情報の活用促進」

○基本目標4「あらゆる世代の誰もが安心して暮らすことのできる、支え合いつながり合う地域づくり」

「NO. 49 コミュニティバスの利便性向上」、「NO. 59 公共交通網の充実」

のうち、新京成線連続立体交差事業

(秋山委員長)

昨年度の実績を見ると、総合戦略の基本目標1では、人々が交流・定着するためのまちづくりを目指して、事業を進めていったことが分かる。

例えば、「市民参加型スポーツイベント事業」や「札幌・名護観光イベント事業」では、市の地域資源である日本ハムファイターズと協力した事業を進めたと思う。

今年度は、ファイターズ鎌ヶ谷スタジアムがオープンして20周年であり、今後も市と協力し、様々な事業に取り組んでいければと思うが、足立委員はいかがか。

(足立委員)

今年度、20周年事業に係る様々なイベントを実施することが出来た。

日本ハムファイターズは、鎌ヶ谷を盛り上げるための一つの手段であると考えており、取組み一つひとつが市のまちづくりに繋がっている。

今後も市と協力して、鎌ヶ谷市にずっと住み続けたいと思えるまちにしていきたいと考える。

(秋山委員長)

ファイターズ鎌ヶ谷スタジアムでは、運動遊具の設置や畑をつくるなど、面白い取組を考え、実施している。

私の知り合いで、結婚してから鎌ヶ谷に戻ってきた夫婦がいるが、生まれ育った場所に戻り、住みたいと思えるまちづくりが重要である。

(菅野委員)

社会増加数は、平成27年度と比べ平成28年度は増加してはいるが、このままの取組みでは、平成31年度の目標値(1,000人)を達成するのは難しいと感じている。

合計特殊出生率についても、同様なことが言える。

目標値達成のため、今後新たな取組みを展開していく必要があると思うが、市として何か考えはあるのか。

(鎌ヶ谷市)

社会増加数は、昨年度は86人増加しているが、子育て世代に限っては、マイナスとなっている。しかし、新鎌ヶ谷地区を見れば、子育て世代の人数は、5年前と比べ、約350人増加している。

一方、出生数は、昨年度800人を割っているが、合計特殊出生率は、千葉県とほぼ同水準である。

これらを改善するためにも、まずは鎌ヶ谷市のことを知ってもらうことが重要であると認識している。そのためにも、市では、大仏、梨、ファイターズ鎌ヶ谷スタジアムの観光3大コンテンツを活用し、PRを行うとともに、一昨年度からは、北海道や沖縄県へ梨の販売等を行い、市の知名度向上に力を入れている。

今後も、新京成線の高架や北千葉道路の整備などを通じて、市のポテンシャルを高め、市の魅力を発信することで、市に住みたい、住み続けたいと思ってもらえる人を

増やしていく。

(秋山委員長)

市の取組みをPRし、一人でも多くの方に鎌ヶ谷市のことを知ってもらうことが重要であり、今後力を入れていくべき点である。

鎌ヶ谷市では、安心して出産・子育て出来る環境づくりとして、妊産婦への支援強化や、民間保育所・児童センターの整備などを行うとともに、子育て支援情報の充実等を図っているかと思う。

市の待機児童も3年連続ゼロを達成するなど、今後も子育て世代にやさしい街の実現に向け、取り組んでいく必要があると思いますが、子育てコーディネーターの榎本委員は、いかがか。

(榎本委員)

①ホームページのリニューアル化についてであるが、他市ではイベントカレンダーを掲載しているので、リニューアルに併せて実施して欲しい。

市では子育て世代向けのイベントなど、多くのイベントが実施されているが、現在子育て関係のイベントは、ロコミか「かまっこ応援団」のみである。

鎌ヶ谷に住むことを決めたお母さんの声では、「かまっこ応援団」のイベント情報を見て、市に住むことを決めた人もいる。

移住の際、ウェブの情報は一番気になる場所であり、市のホームページを見れば、全てのイベントが把握できるようになるなど、情報を集約して欲しい。

②待機児童の解消のため、保育園を整備しているが、本当に必要な人が利用しているかが疑問である。

市内の幼稚園では、2歳児保育や、夜7～8時まで預かり保育を実施（バス送迎付き）している幼稚園もあるが、知らないお母さんが多い。

そのため、パートで数時間働く場合も、とりあえず保育園に預ける人が多いので、このような場合は、幼稚園でも預けることが可能であることを案内出来たら良い。

保育園が整備されていく一方、今後出生率が減っていく中、幼稚園はつぶれてしまうのではないかと危惧する声も聞くので、鎌ヶ谷市に限っては、保育園の整備について、そろそろ安定してくる時期なのではないかと思う。

③子育てに関する連携として、健康増進課とこども支援課が連携を行う「Welcome Baby School」を実施し、赤ちゃんから小学生まで、きめ細かいサービスを実施している。この事業は、お母さん達にとっても好評である。

しかし、学校関係になると、横の連携があまりないと感じている。一貫したこども支援は、赤ちゃんから学校教育までだと思うので、もっと学校との連携を密にし、事業に取り組んで欲しい。

(秋山委員長)

実施していく中で見えてくる課題はある。

情報については、誰が見ても分かるような作りにすることが大事である。

さて、基本目標4の指標である「自治会加入世帯数」では、昨年度と比較すると減

少している。地域の中で支え合いながら、安心して暮らすことが出来るようにするためにも、自治会は無くってはならないものかと思うが、菅野委員はいかが。

(菅野委員)

自治会の加入率は、以前は3分の2が加入していたが、最近では60パーセントほどである。

近隣市の会合でも、自治会の加入率アップのためにどうすべきかがテーマになっているが、結論は出ない。

防災・防犯などは、自治会が主体となって活動しており、今後とも自治会の活動を活発化していきたい。

(秋山委員長)

他市でも加入率は同じくらいなのか。

(菅野委員長)

他の市も、60～70パーセント弱位と聞いている。最近では、広報など市からの配布物も見えていない人が多い。まずは情報を知らせることが大切だと考える。

(鎌ヶ谷市)

この件については、市も大きな問題であると考えている。若い人は新聞を取っていない人もいるので、新聞の折り込みも減ってきている。

そのため、市では要望があれば、広報を直接配付する手続きを行っている。

地域新聞のように全世帯に配布している自治体も県内でいくつかあるので、情報の周知として、今後検討すべき課題であると考えている。

(片桐委員)

自治会の加入率を下げる要因として、班長をやりたくないという人が多い。

鎌ヶ谷市は、自治会が多すぎると感じており、自分が所属する自治会では、2～3年に1回順番が回ってくる。

もう少し自治会を大きくするなど、負担が減るような工夫を考えた方がよい。

(菅野委員)

片桐委員の意見はそのとおりである。高齢化の問題もあり、担い手が減ってきている。通常の自治会でも5～6年で班長が回ってきている。

(秋山委員長)

雇用や就労の関係として、市内における新規就農者数が昨年度と比べて増えている。

市の特産物である梨については、地方創生を進める中で、市は国の交付金を活用しながら、販路拡大を進めているかと思うが、昨年度や今年度の取組み状況について、市からお話しいただきたい。

(鎌ヶ谷市)

資料1の5ページを基に「ふるさと名物商品推進事業」について説明。

(秋山委員長)

農産物の関係として、とうかつ中央農業協同組合の真子委員はいかがお考えか。

(真子委員)

少子高齢化の問題は、農業にも当てはまり、農業を営んでいる現役世代も、年々高齢化している。

農家にアンケートを取ったところ、5割の農家が、後継者がいないと回答している。

そのため、今後も後継者が安心して農業が続けられるような取組みを進めていただきたい。

## ②今後の市の地方創生の取組みについて

(秋山委員長)

それでは、続いて「②今後の市の地方創生の取組みについて」に移る。

市では総合戦略の3年目として、昨年度の課題等を踏まえながら、事業を実施しているが、これらの事業を含め、今後市の地方創生の取組みについて、ご意見・ご提案等意見があれば、お願いしたい。

無ければ、私から伺いたいが、情報発信の強化として、市ではホームページのリニューアルを予定しているとのことだが、今後どのように行っていくのか伺いたい。

(鎌ヶ谷市)

高齢者や障がい者が支障なく利用できるようにした「ウェブアクセシビリティ」の向上を図っていく。また、危機管理の対応として、広報広聴室だけでなく、各所属で発信できるようにする。

リニューアルは、平成30年6月までに行うよう、準備を進めている。

(秋山委員長)

情報発信で大切なことは、いかにして見てもらうかが大切である。

リニューアル後、ただ情報を発信しただけでは意味がなく、毎日見たくなるような情報を載せたり、色んなところにリンクしたりし、検索した時、鎌ヶ谷が出てくるようにすることが大事である。

(鎌ヶ谷市)

これまで鎌ヶ谷市のホームページは見づらいといった意見があった。

新しい情報を更新しても、鎌ヶ谷市のホームページに来てくれなければ意味がないので、リニューアルにあたっては、効率の良い情報発信を行っていく。

(秋山委員長)

始めたら、続けることが大事である。

さて、住みやすい街に繋がる取組みとして、新京成線の高架事業があるが、いよいよ今月(平成29年10月)に津田沼方面の1線高架運行が開始される。

松戸方面の高架運行は、平成31年度になる見込みとのことだが、特に、初富駅や北初富駅周辺の整備にも大きく影響してくるかと思うが、これについて新京成電鉄の細田委員はいかがか。

(細田委員)

新京成線については、平成29年10月21日(土)から1線高架運行が開始され

る。

この高架が完成すれば、市内の踏切が解消され、車の渋滞も減り、市の街づくりも大きく変わってくる。また、踏切の事故もなくなり、安全な運行にも繋がる。

全線高架運行はあと2年後であり、今後も市と協力し、力を入れていきたい。

(秋山委員長)

市では、創業事業者や中小企業への支援、空き店舗の活用などを推進し、商店会の集客に力を入れるとともに、企業誘致に係る取組みを進めている。

今後も、勤労者が働きやすい環境づくりや起業の促進、商店会の活性化が必要であると思うが、商工会の松林委員はいかがか。

(松林委員)

商工会関係とは別であるが、総合戦略の事業の一つである、コミュニティバスについてお話ししたい。

仕事で車に乗ることが多く、あいにく車が故障して修理に出している間、駅に行くのにコミュニティバスを利用した。バスの中は涼しく、運賃が100円でとても助かった。病院へ行く人、買い物に行く人、幼稚園の送り迎えなど、バスを利用している人が多いのには驚いた。

バスの中は、さながらコミュニティであり、増便となったことに、とても感謝していると喜んで話をしたり、和やかな雰囲気であった。

次も、利用したいと思った。

今後は、市内全体を回れるようにするなど、コミュニティバスを充実化してほしい。

(鎌ヶ谷市)

コミュニティバスは、昨年度ルート変更や土日運行を開始し、増便を行った。

これにより、これまで月平均6,000人の利用者であったが、10,000人まで増え、このままいけば、年間100,000人を超える見込みである。

今後は、今の運行形態でどのような課題や意見があるか把握した上で、次に活かしていきたいと考えている。

(秋山委員長)

出産や子育ての取組みを推進するためには、ハード面だけでなく、妊産婦や子育て世代へのきめ細かなサービスを充実していく必要がある。

日々、様々な患者と接している片桐委員は、何か意見はあるか。

(片桐委員)

自分の住んでいるところが、船橋市との境なので、出来れば教育の分野で隣の市と連携を図ることが出来ると良い。例えば隣の市の中学校へ行けるようするなど、上手く工夫できると良い。

情報もただ掲載するのではなく、市ならではの取組みについて、インパクトを付けて宣伝すると良い。

病児保育についてであるが、私は反対の立場である。子どもは病気の時が一番辛い時なので、その時に子どもを預けることは良くないと考える。

仕事の都合上、仕方のないことかもしれないが、何とか、お母さんが休みをとれるような環境づくりを進めるなど、市が工夫をし、病児保育を減らす取組みを考えて欲しい。

(秋山委員長)

今後も地方創生を進めていく上では、市だけでなく、国や千葉県の協力が必要かと思うが、東葛飾地域振興事務所の伊藤委員から何か意見はあるか。

(伊藤委員)

総合戦略については、他の自治体の会議にも出席している。

鎌ヶ谷市の子育て支援策などは、他の市と比べて、遜色はないが、知名度が低いことが課題として挙げられる。

観光を一つのツールとして、知名度を上げるのが良いと考える。鎌ヶ谷市の観光入込客数は、昨年度より増加しており、今後も継続して増加していくと良い。

ブランド化事業として、梨を進めているかと思うが、例えば市川市では、梨をドバイに輸出したり、ヤマザキパンとコラボして、ランチパックやジュースを作っている。

梨に限らず、ブランド化事業はとても大事であるので、今後も続けていくことが重要である。

また、物産展として、他県で千葉県の特産品を売り込むことも実施しているので、このような場で、鎌ヶ谷市も出店して、知名度向上を図ることで、市に人を呼び込むと良い。

(秋山委員長)

京葉ガスの田中委員はいかがか。

(田中委員)

総合戦略の取組みのうち、半分以上が上昇しており、一生懸命取り組んだ成果が出ていると感じている。

その中で、鎌ヶ谷の魅力をいかに発信していけるかが大事であり、住んでいる人が住み続けたいと思ってもらえるようになることが重要である。

例えば、鎌ヶ谷市は、犯罪が少なく、治安が良い。また、交通事故の死亡者数もほぼ0人である。

このように、他の市と比べて良いところを探して、PR出来ると良い。

(秋山委員長)

連合松戸・鎌ヶ谷地区連絡会の倉島委員はいかがか。

(倉島委員)

市の雇用や労働の取組みについて、今後も注視していきたいと考える。

### (3) その他

(秋山委員長)

最後に事務局から何かあるか。

(鎌ヶ谷市)

委員の皆さまからいただいた意見は、今後の市の取組みの中で、検討させていただき、これからの総合戦略の推進に活かしていく。

また、来年度予算が固まる3月末に、本日いただいた意見の検討結果をお送りさせていただきます。

(秋山委員長)

それでは、ほかに意見が無ければ、本日の会議はこれで終了とする。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成29年10月31日

氏名

倉島 哲也

---

氏名

榎本 美紅

---